

---

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

# TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

## 東京都感染症週報

2012年第12週  
(3月19日～3月25日)

- \* 2012年3月28日現在の情報により作成しています。  
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。  
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- \* 今週は感染症豆知識「Hibワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン」も記載しています。

平成24(2012)年3月29日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)  
FAX：03-5332-7365  
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

---

# 全数把握対象疾患 報告数 2012年12週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		9週	10週	11週	12週		12週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	73	64	89	43	918	324	6,019
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ (H5N1)							
三類	コレラ							1
	細菌性赤痢	4	2	5	1	20	7	66
	腸管出血性大腸菌感染症	2			1	8	25	137
	腸チフス					3	1	6
	パラチフス					2		4
四類	E型肝炎					5	1	33
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎			2	1	4	1	29
	エキノコックス症							2
	黄熱							
	オウム病							1
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症						1	1
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱							
	つつが虫病					1		60
	デング熱	1		3		10		33
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニバウイルス感染症							
	日本紅斑熱							
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
マラリア			1		2		9	
野兎病								
ライム病								
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症	1	1	2		11	5	144	
レプトスピラ症					1		1	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		9週	10週	11週	12週	年累計	12週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	2	4	3	6	45	10	191
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)		1	1	2	12	1	42
	急性脳炎 *2	5				13	3	138
	クリプトスポリジウム症					1		4
	クロイツフェルト・ヤコブ病			2	1	4	2	42
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1			1	5	1	74
	後天性免疫不全症候群	6	8	5	8	98	11	289
	ジアルジア症			1		3	1	8
	髄膜炎菌性髄膜炎							4
	先天性風しん症候群							
	梅毒	7	3	3	8	66	6	176
	破傷風						1	17
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1		4	1	20
	風しん	1	3			15	1	91
麻しん	1	1		2	14	3	86	
2012/3/28集計								

\*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

\*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

### (全数把握対象疾患のコメント)

#### 〈二類感染症〉

**結核 43件** 肺結核 26件、その他の結核 16件、肺結核及びその他の結核 1件、年齢は10代 1件、20代 5件、30代 6件、40代 5件、50代 3件、60代 9件、70代 8件、80代 5件、90歳以上 1件、推定感染地は国内 41件、国内又は中国 1件、フィリピン 1件であった。

#### 〈三類感染症〉

**細菌性赤痢 1件** 患者、年齢は20代、菌種はフレキシネル、推定感染地はインド、推定感染経路は経口感染であった。

**腸管出血性大腸菌感染症 1件** 患者、血清型・毒素型はO111 VT1、年齢は20代、推定感染地は国内(東京都)、推定感染経路は経口感染であった。

#### 〈四類感染症〉

**A型肝炎 1件** 患者、年齢は20代、推定感染地は国内、推定感染経路はその他(不明)であった。

#### 〈五類感染症〉

**アメーバ赤痢 6件** 腸管 6件、年齢は20代 1件、30代 1件、40代 1件、50代 2件、70代 1件、推定感染地は国内 3件、フィリピン 1件、中国 1件、国外(渡航先不明) 1件、推定感染経路は経口感染 3件、性的接触(同性間) 1件、その他(不明) 2件であった。

**ウイルス性肝炎 2件** B型 1件、その他(サイトメガロウイルス) 1件、年齢はそれぞれ20代 1件、40代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路はそれぞれ性的接触(異性間) 1件、その他(不明) 1件であった。

**クロイツフェルト・ヤコブ病 1件** 古典型CJD、年齢は70代であった。

**劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件** A群、年齢は80代、推定感染地は国内、推定感染経路は創傷感染であった。

**後天性免疫不全症候群 8件** AIDS 2件、無症候キャリア 6件、AIDS患者の年齢は40代 1件、70代 1件、無症候キャリアの年齢は20代 1件、30代 4件、40代 1件、推定感染地は国内 7件、不明 1件、推定感染経路は性的接触(同性間) 6件、不明 2件であった。

**梅毒 8件** 早期顕症梅毒Ⅱ期 3件、先天梅毒 1件、無症候梅毒 4件、年齢は5歳未満 1件、20代 3件、30代 2件、40代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 8件、推定感染経路は性的接触 5件(同性間 3件、異性間 1件、性別不明 1件)、性的接触(異性間)又はその他 1件、母子感染(胎内) 1件、静注薬物 1件であった。先天梅毒の1例は梅毒性バラ疹を認め、先天梅毒の5つの要件のうち「早期先天梅毒の症状を呈する場合」に該当する。

**麻しん 2件** 修飾麻しん 1件、臨床診断例 1件、年齢は20代 1件、30代 1件、推定感染地は国内 1件、タイ 1件、推定感染経路はその他(不明) 2件、麻しん含有ワクチン接種歴は1回接種 1件、不明 1件であった。

## 定点把握対象疾患 報告数 2012年12週

定点種別	対象疾患	2012年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		9週	10週	11週	12週	定点当たり		
小児科	RSウイルス感染症	52	45	45	31	0.12	263	264
	咽頭結膜熱	40	36	49	59	0.22		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	441	609	525	386	1.47		
	感染性胃腸炎	1,978	2,287	2,148	2,020	7.68		
	水痘	274	303	281	351	1.33		
	手足口病	2	2	2	9	0.03		
	伝染性紅斑	27	31	36	28	0.11		
	突発性発しん	110	109	121	105	0.40		
	百日咳	8	6	5	4	0.02		
	ヘルパンギーナ	6	3	2	3	0.01		
	流行性耳下腺炎	42	57	40	44	0.17		
	川崎病(注1)	2	3	8	3	0.01		
	不明発しん症(注1)	16	19	12	14	0.05		
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	11,006	9,327	6,641	4,952	11.88	417	419
眼科	急性出血性結膜炎						38	39
	流行性角結膜炎	20	10	14	10	0.26		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)		2	1			24	25
	無菌性髄膜炎	3	2		3	0.13		
	マイコプラズマ肺炎	20	21	14	15	0.63		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)							
	インフルエンザ入院(注4)	53	26	18	17	0.68		
2012/3/28集計								

(注1) 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザを除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

(注4) 2011年36週より開始

### (今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・インフルエンザの定点当たり報告数は7週連続して減少したが、第5週から続いている流行警報の解除には至っていない。

### (小児科・内科定点医療機関からのコメント)

#### 台東区

- ・感染性胃腸炎が増えています。

#### 世田谷区

- ・アデノウイルス迅速キット陽性 1名。
- ・感染性胃腸炎25名中、ロタウイルス 4名(1歳児 2名、2歳児、3歳児 各1名)。

#### 中野区

- ・3歳児の手足口病は季節外れですが、典型的な所見です。

#### 荒川区

- ・感染性胃腸炎44名中、ロタウイルス 15名、ノロウイルス 2名、病原性大腸菌O25 1名。
- ・感染性胃腸炎 病原性大腸菌O1 2名、O153 1名、カンピロバクター 2名。アデノウイルス・ロタウイルスの重複感染例がありました。

#### 板橋区

- ・感染性胃腸炎 病原性大腸菌O18、O111 各1名(VT1、VT2は共に陰性)

※ インフルエンザの迅速診断結果及びコメントは14頁にまとめて記載しました。

## 定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2012年12週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～6か月	5	2	3	17	3		1	2		1
～1歳	10	2	1	112	8			40		
1歳	7	9	8	343	43	2	3	54		1
2歳	7	10	27	252	60	3	2	5		
3歳	2	7	27	206	61	1		3		
4歳		6	64	194	70	2	4	1		
5歳		8	57	128	51		4			
6歳		4	49	124	24	1	3			
7歳		1	30	122	16		4			
8歳		5	26	83	9		2			
9歳		1	26	65	3		1			
10～14歳		1	36	144	3		4		1	
15～19歳			2	32					2	
20～29歳		3	30	198					1	1
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	31	59	386	2,020	351	9	28	105	4	3
先週比	-14	10	-139	-128	70	7	-8	-16	-1	1

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～6か月				6		
～1歳			5	30		
1歳	5		2	147		1
2歳	4	1	2	181		
3歳	2		3	268		
4歳	6	1		334		1
5歳	7	1	1	364		
6歳	8			454		
7歳	3			494		
8歳	6		1	325		
9歳	1			247		
10～14歳	2			963		
15～19歳				225		
20～29歳				195		
30～39歳				283		2
40～49歳				262		2
50～59歳				81		
60～69歳				48		4
70～79歳				32		
80歳以上				13		
合計	44	3	14	4,952		10
先週比	4	-5	2	-1,689		-4

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

### 全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2012年12週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳		1
30～39歳		1
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計		2

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2012年12週

定点種別	小児科									
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田			1	5	1					
中央区			6	14	6			3		
みなと	7	3	16	54	19			4		
新宿区	1	1	21	27				3		
文京	2		2	16	3		1	2		
台東				47	2			3		
墨田区		1	5	20	9		1			
江東区	1		13	143	15	2	2	5		
品川区			9	49	7			1		
目黒区	1	3	1	21	2		1			
大田区	1	9	35	156	18			12	1	
世田谷	1	6	22	115	5			3		
渋谷区		2		20	3					
中野区			1	45	7	1		3		
杉並			9	66	6			5		
池袋			1	18	2			2		
北区			4	28	9			2		
荒川区	1	1	9	70	6		1			
板橋区		7	6	27	4		1	3		
練馬区			15	123	10	1		6		
足立	1		14	110	18		5	4		
葛飾区		1	7	64	13	1	1	3		1
江戸川	3	7	31	112	18		3	9	1	
八王子市		8	34	103	23	1	3	5		
町田市		1	22	117	10		1	7	1	1
西多摩	1		6	29	10	1		1		
南多摩	1		6	60	23		1	4		1
多摩立川	6		24	68	23			2		
多摩府中	3	3	24	132	21	1	6	6	1	
多摩小平	1	6	37	151	56	1		7		
島しょ			5	10	2		1			
東京都合計	31	59	386	2,020	351	9	28	105	4	3

全数把握対象疾患  
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2012年12週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田				44		
中央区	5			34		1
みなと	1			69		
新宿区				93		
文京				61		
台東				45		
墨田区				54		
江東区	2		3	158		1
品川区				80		
目黒区				24		1
大田区	8			218		
世田谷	1		3	329		
渋谷区				32		1
中野区	1			81		
杉並	2			186		
池袋				83		
北区				78		
荒川区			1	129		1
板橋区	3			74		
練馬区	1		1	193		
足立	1			180		1
葛飾区	1		1	171		
江戸川	2			178		1
八王子市	10		1	381		1
町田市			3	214		
西多摩				168		
南多摩	4	1		227		
多摩立川	1			316		1
多摩府中	1	1	1	553		
多摩小平		1		447		1
島しょ				52		

東京都合計	44	3	14	4,952		10
-------	----	---	----	-------	--	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		1
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		1
八王子市		
町田市		
西多摩		
南多摩		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計		2
-------	--	---

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2012年12週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田			0.33	1.67	0.33					
中央区			2.00	4.67	2.00			1.00		
みなと	1.17	0.50	2.67	9.00	3.17			0.67		
新宿区	0.13	0.13	2.63	3.38				0.38		
文京	0.50		0.50	4.00	0.75		0.25	0.50		
台東				11.75	0.50			0.75		
墨田区		0.20	1.00	4.00	1.80		0.20			
江東区	0.11		1.44	15.89	1.67	0.22	0.22	0.56		
品川区			1.13	6.13	0.88			0.13		
目黒区	0.20	0.60	0.20	4.20	0.40		0.20			
大田区	0.08	0.69	2.69	12.00	1.38			0.92	0.08	
世田谷	0.06	0.38	1.38	7.19	0.31			0.19		
渋谷区		0.50		5.00	0.75					
中野区			0.14	6.43	1.00	0.14		0.43		
杉並			0.90	6.60	0.60			0.50		
池袋			0.20	3.60	0.40			0.40		
北区			0.57	4.00	1.29			0.29		
荒川区	0.25	0.25	2.25	17.50	1.50		0.25			
板橋区		0.70	0.60	2.70	0.40		0.10	0.30		
練馬区			1.15	9.46	0.77	0.08		0.46		
足立	0.08		1.08	8.46	1.38		0.38	0.31		
葛飾区		0.13	0.88	8.00	1.63	0.13	0.13	0.38		0.13
江戸川	0.25	0.58	2.58	9.33	1.50		0.25	0.75	0.08	
八王子市		0.73	3.09	9.36	2.09	0.09	0.27	0.45		
町田市		0.13	2.75	14.63	1.25		0.13	0.88	0.13	0.13
西多摩	0.13		0.75	3.63	1.25	0.13		0.13		
南多摩	0.11		0.67	6.67	2.56		0.11	0.44		0.11
多摩立川	0.43		1.71	4.86	1.64			0.14		
多摩府中	0.15	0.15	1.20	6.60	1.05	0.05	0.30	0.30	0.05	
多摩小平	0.07	0.40	2.47	10.07	3.73	0.07		0.47		
島しょ			5.00	10.00	2.00		1.00			

東京都	0.12	0.22	1.47	7.68	1.33	0.03	0.11	0.40	0.02	0.01
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

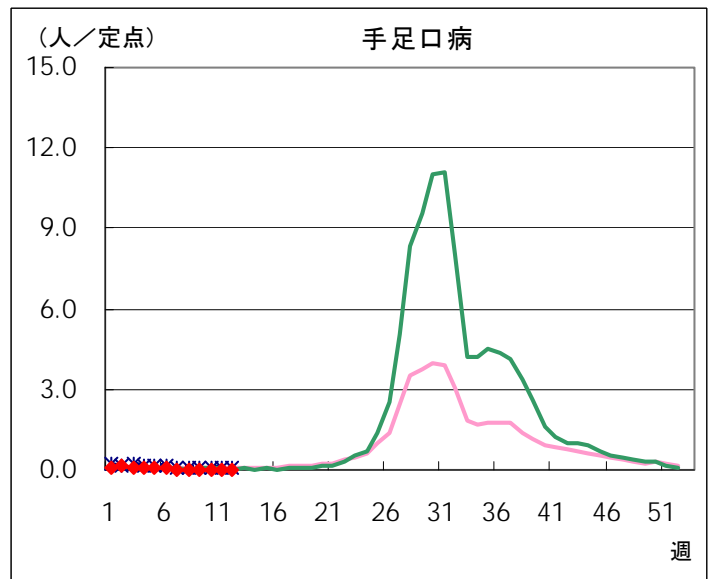
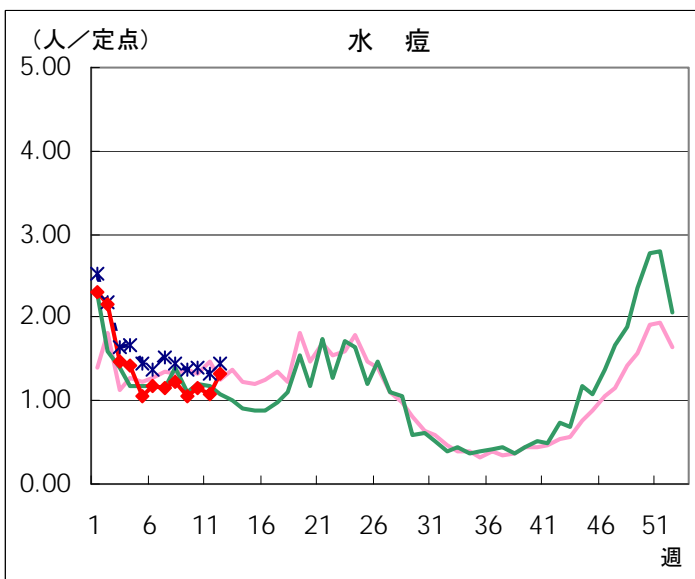
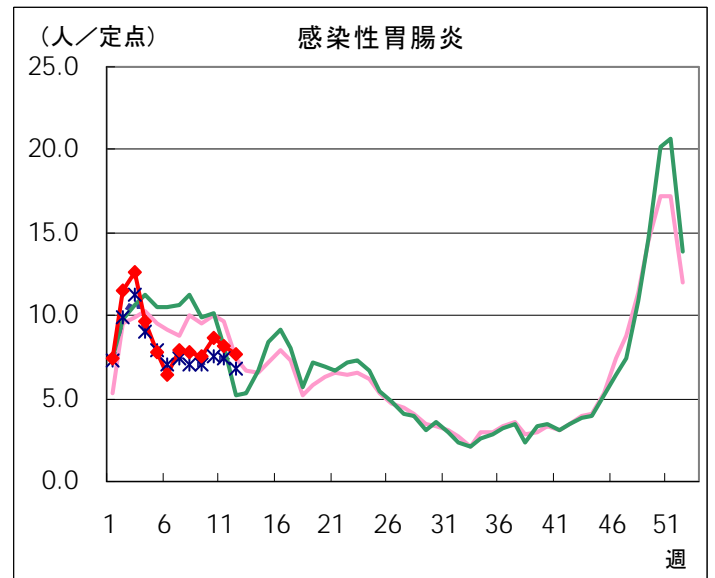
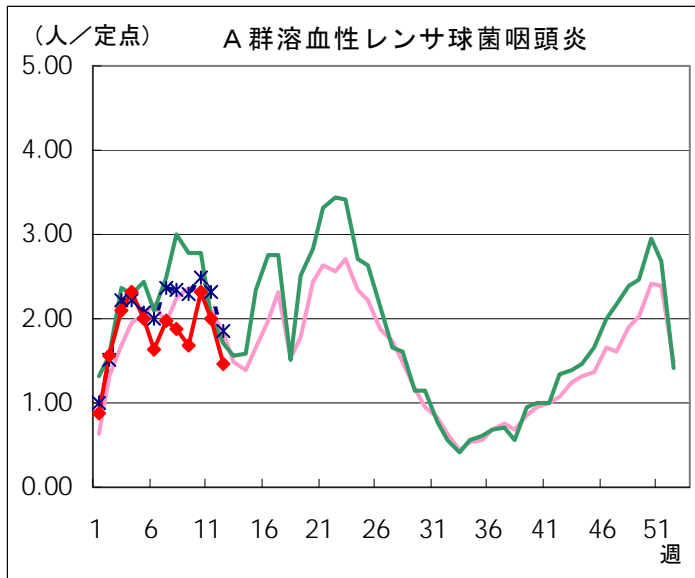
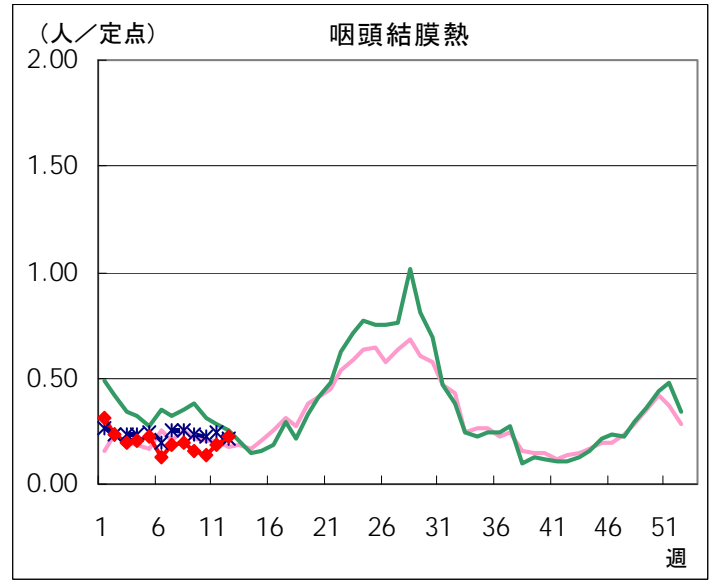
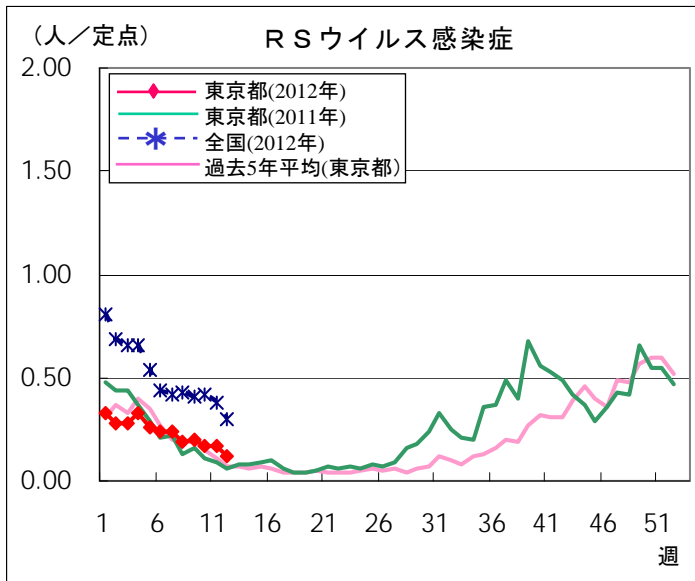


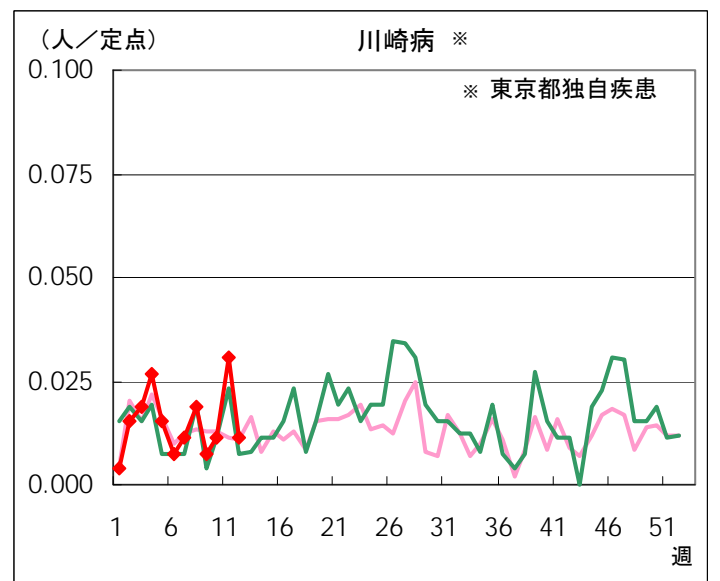
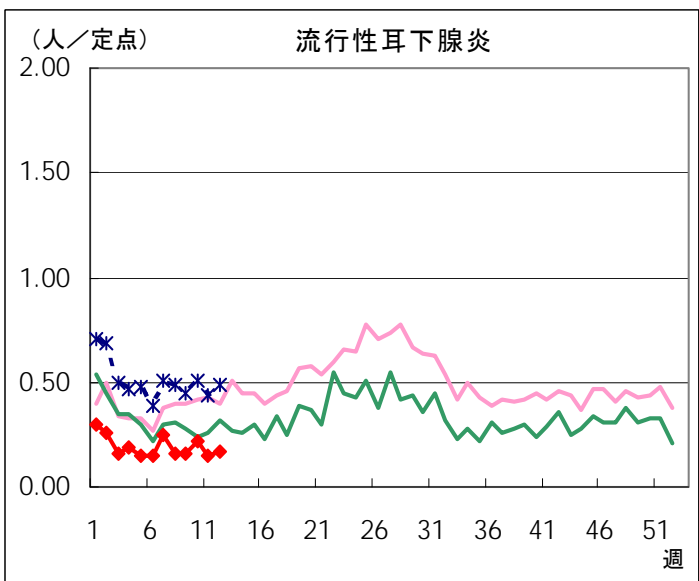
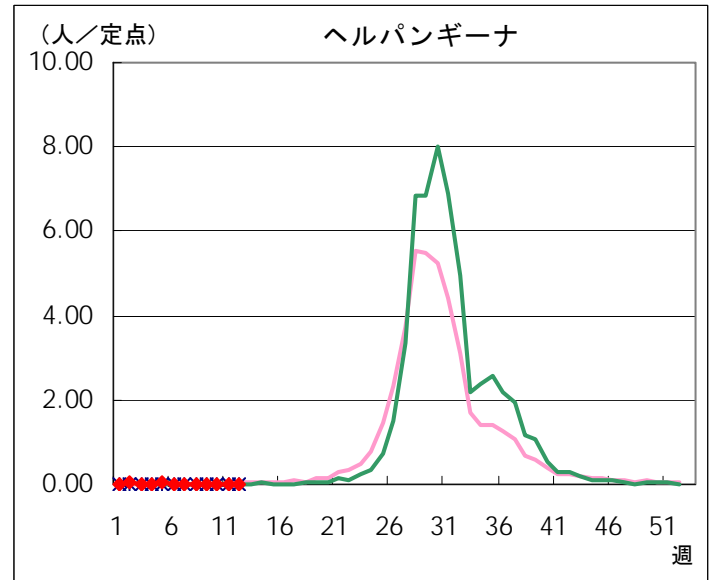
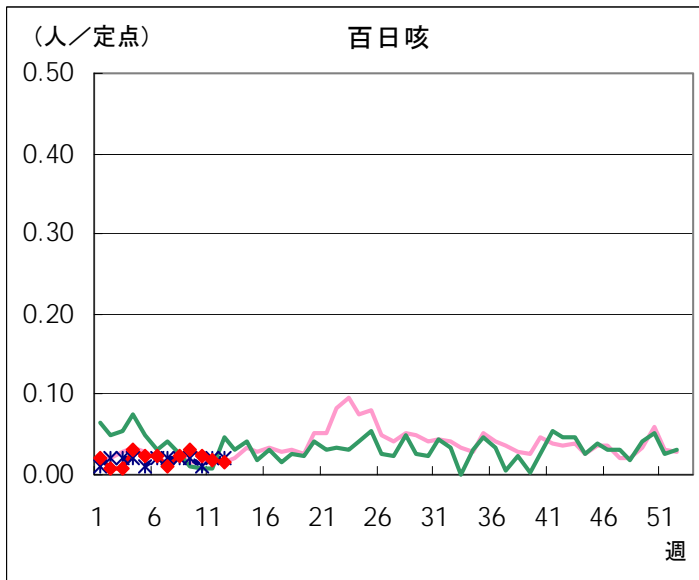
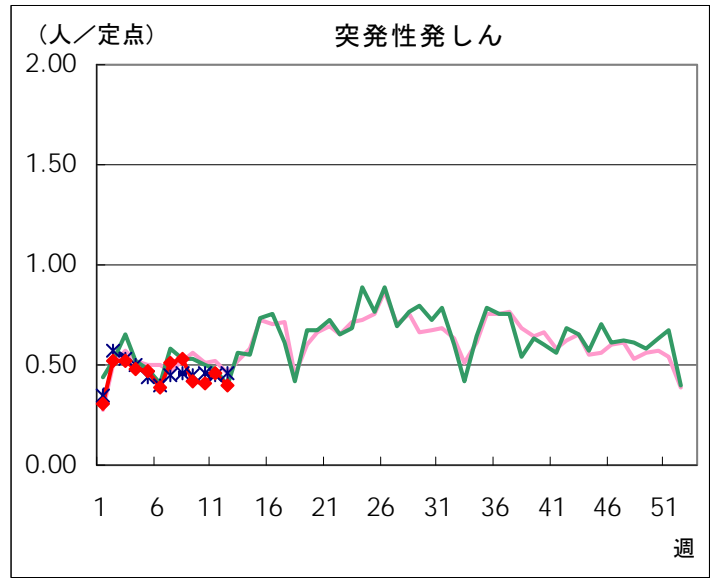
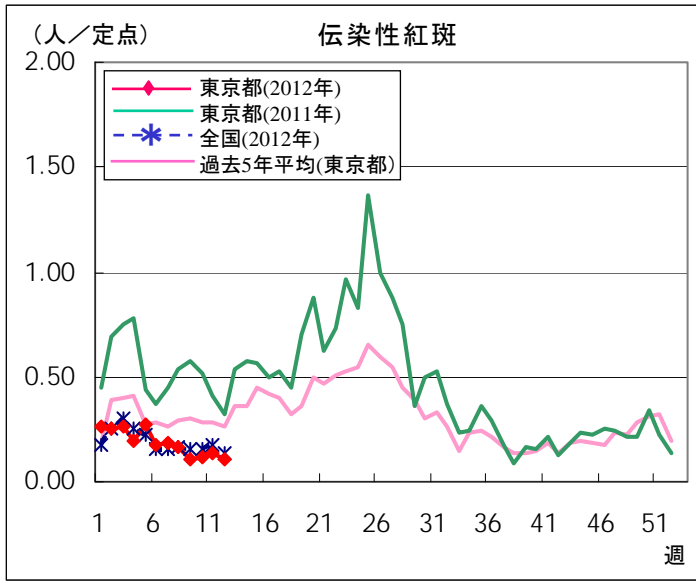
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田				11.00		
中央区	1.67			6.80		1.00
みなと	0.17			7.67		
新宿区				7.75		
文京				8.71		
台東				6.43		
墨田区				6.75		
江東区	0.22		0.33	11.29		1.00
品川区				6.67		
目黒区				3.00		1.00
大田区	0.62			10.38		
世田谷	0.06		0.19	13.16		
渋谷区				4.57		1.00
中野区	0.14			7.36		
杉並	0.20			11.63		
池袋				10.38		
北区				7.09		
荒川区			0.25	18.43		1.00
板橋区	0.30			4.63		
練馬区	0.08		0.08	9.19		
足立	0.08			9.00		0.50
葛飾区	0.13		0.13	13.15		
江戸川	0.17			9.89		0.50
八王子市	0.91		0.09	21.17		0.50
町田市			0.38	16.46		
西多摩				12.00		
南多摩	0.44	0.11		16.21		
多摩立川	0.07			15.05		0.50
多摩府中	0.05	0.05	0.05	17.28		
多摩小平		0.07		19.43		0.50
島しょ				26.00		

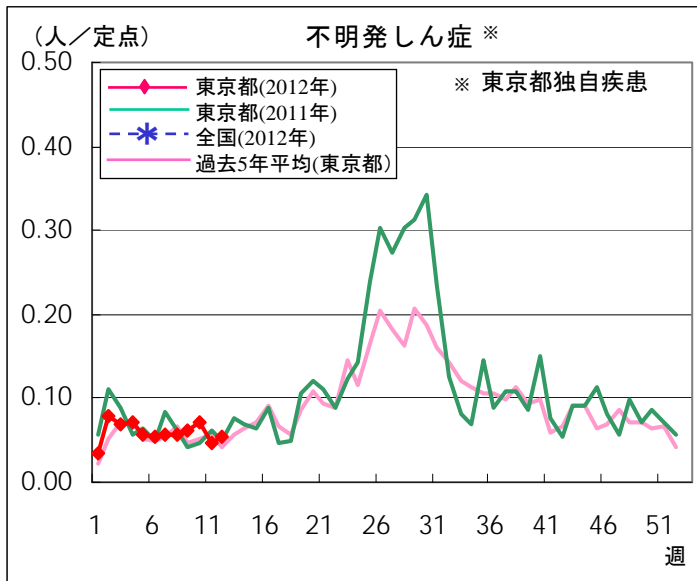
東京都	0.17	0.01	0.05	11.88		0.26
-----	------	------	------	-------	--	------

# 定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2012年12週現在

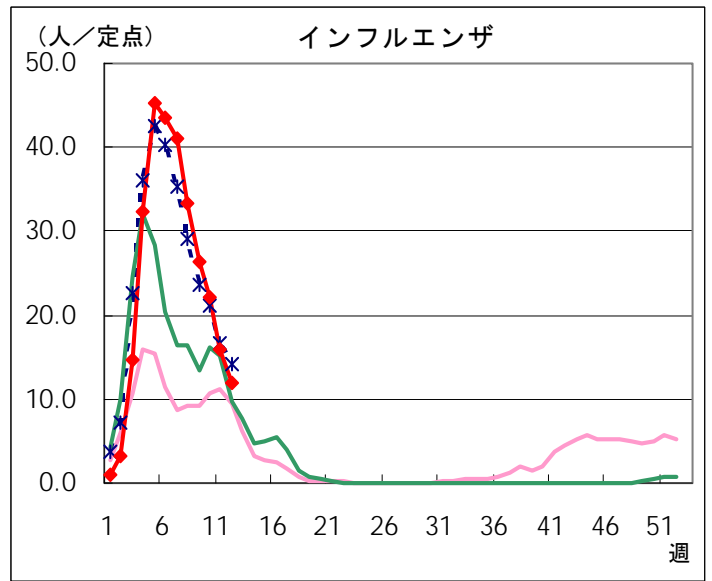
## ◆ 小児科定点



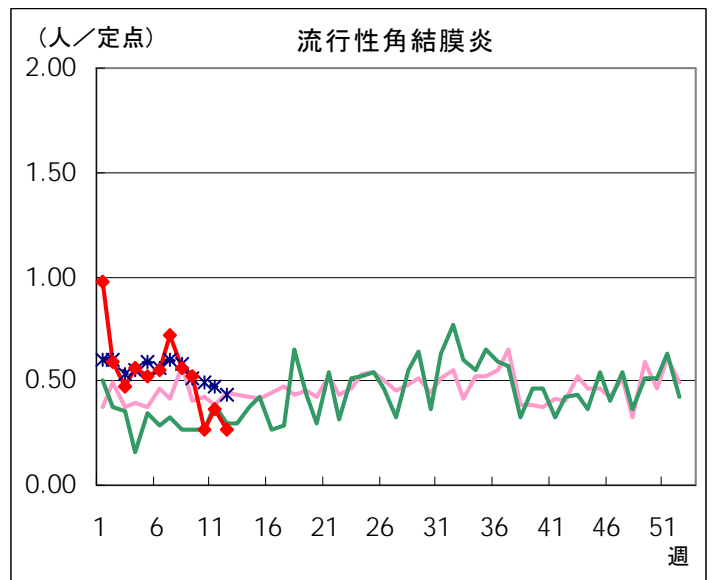
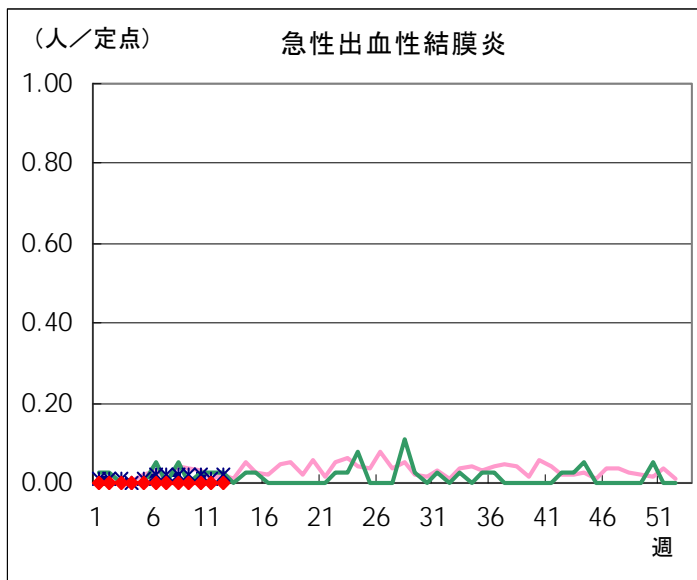




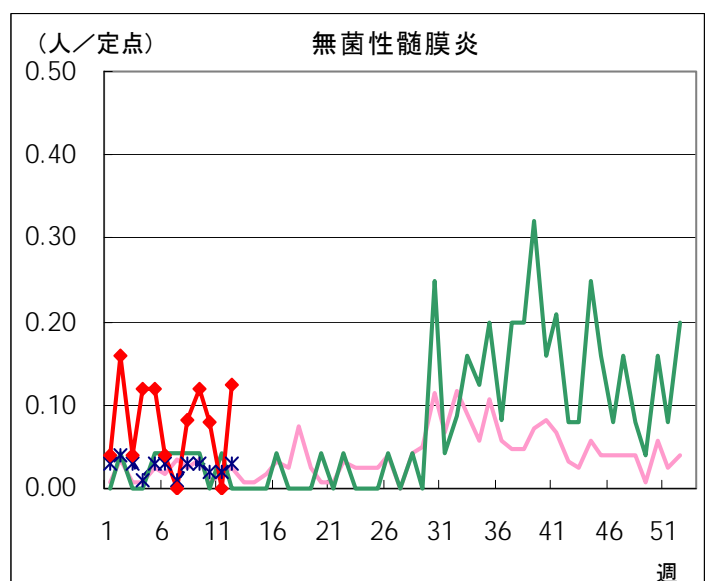
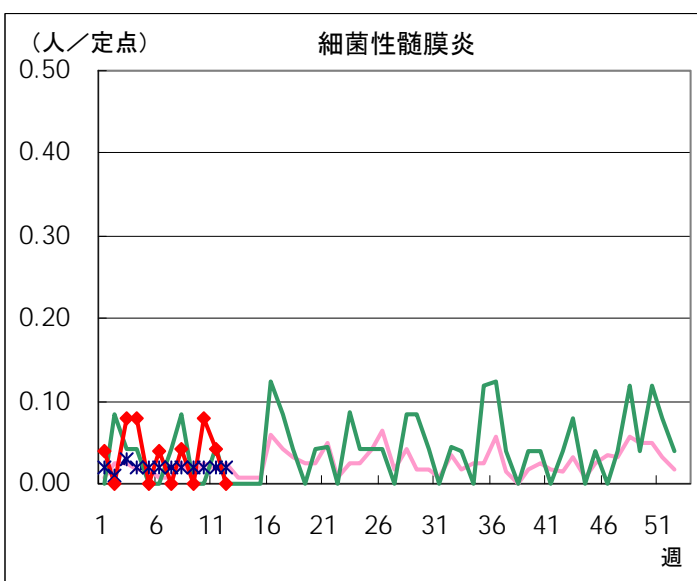
◆ インフルエンザ定点

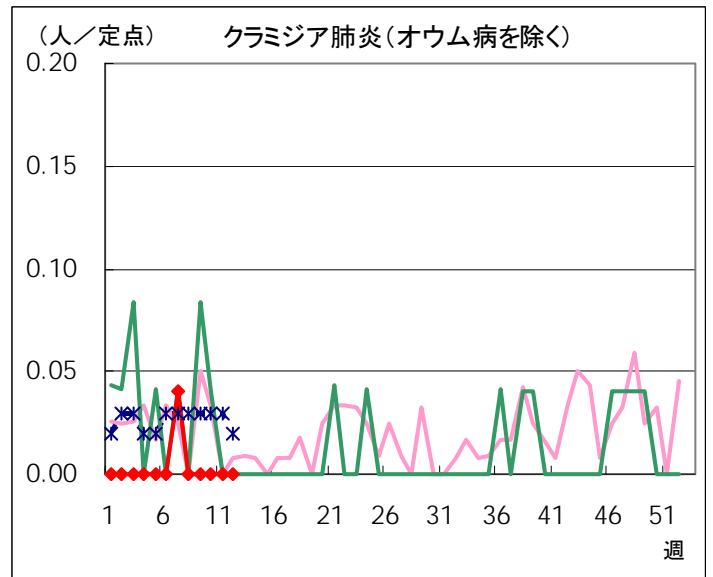
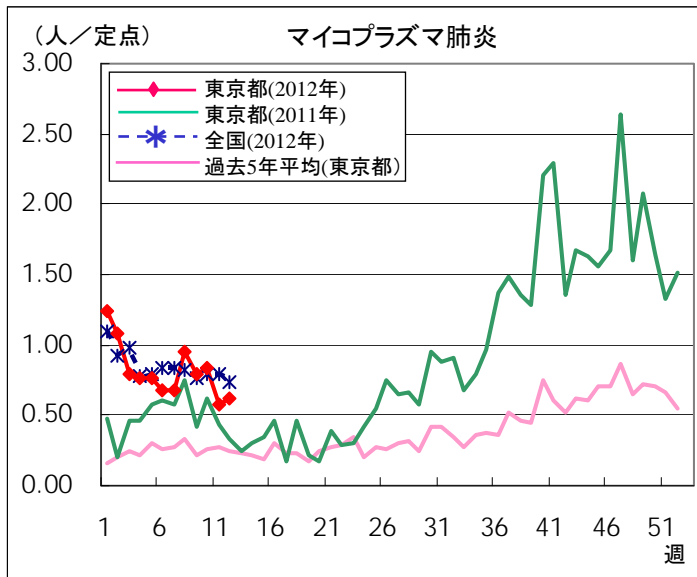


◆ 眼科定点

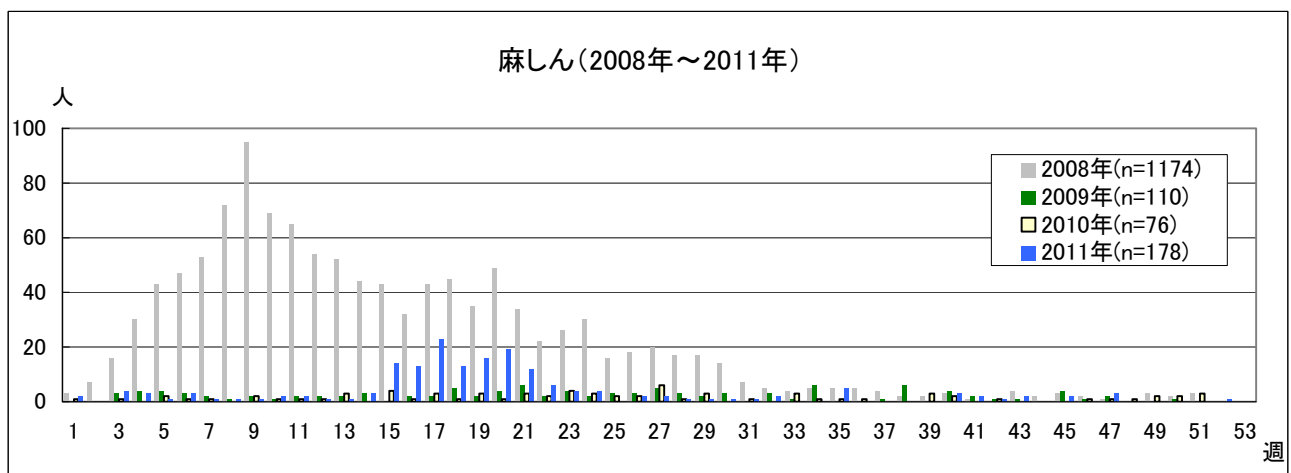
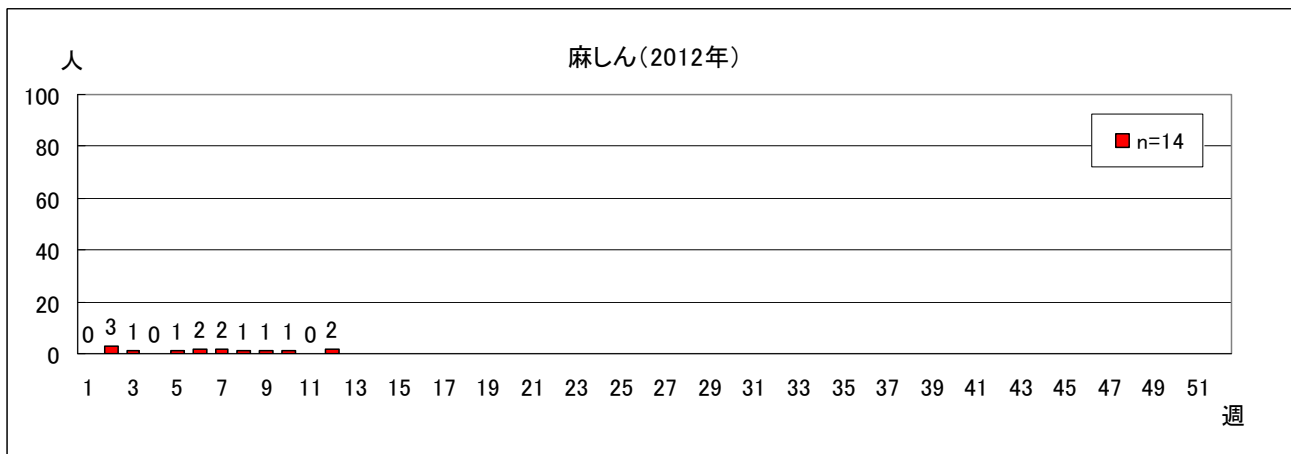


◆ 基幹定点





**全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2012年12週現在**



## 定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

### ◇病原体検出状況

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
3/9	発熱	1M	鼻汁	ライノウイルス	遺伝子
3/13	気管支炎	11M	咽頭拭い液	ライノウイルス	
3/ 日付記載なし	感染性胃腸炎	1	糞便	A群ロタウイルス	抗原
3/13	ウイルス性発しん症	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、ライノウイルス パルボウイルス	遺伝子
3/12	記載なし	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
3/9	急性胃腸炎	2	糞便	A群ロタウイルス	抗原
3/13	急性胃腸炎	2	直腸拭い液	ノロウイルスG II	遺伝子
3/15	気管支炎	4	咽頭拭い液	ライノウイルス	
3/12	伝染性紅斑	5	咽頭拭い液	パルボウイルス インフルエンザウイルス B型 ※	
3/13	感染性胃腸炎	7	直腸拭い液	ノロウイルスG I	
3/15	不明発しん症	8	咽頭拭い液	パルボウイルス、EBウイルス	
3/14	インフルエンザ	15	咽頭拭い液	アデノウイルス インフルエンザウイルス B型 ※	
3/9	感染性胃腸炎	26	糞便	ノロウイルスG II	

※ 下記「遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数」の集計数に含まれる。

### ◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1pdm09*型	AH1型	AH3型	B型
11週			5	14
2011-2012年 シーズン累計**	1		202	90

\* 2011年4月1日から新型インフルエンザ(AH1N1pdm)が季節性インフルエンザに移行されたため、表記を AH1pdm09 とします。

\*\* 2011-2012シーズンの開始は第36週(2011年9月5日～)

◇定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関からいただきました、インフルエンザ迅速診断結果とコメントを下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果			医療* 機関数	備 考
	A型	B型	記載なし		
千代田		26		1	
新宿区	2	14		2	
台東	6	17		4	・すべてB型(13才患者は2月にA型罹患)
墨田区	1	36		5	
江東区	11	130	10	12	
品川区	8	44		5	
目黒区		23		6	
大田区	4	54		9	
世田谷	10	60	17	8	・激減しています。 ・まだ、患者は40名を超えています。 ・B型がほとんどで大きな流行ではない。年齢層もバラバラ。毎年、春先になると、少し出てくるB型という感じ。
渋谷区		3		2	
中野区	10	69	2	10	
杉並	14	50	1	5	
池袋	4	30		3	
北区	12	45	2	8	
荒川区	12	88	2	4	・B型がまだ流行しています。
板橋区	2	2		1	
練馬区	8	59		6	
町田市	3	25		3	
南多摩	23	131	34	10	
多摩立川	5	74	8	6	
多摩府中	20	104	18	12	
多摩小平	15	229	5	12	
島しょ	14	37		1	
合 計	184	1,350	99	135	

\* 迅速診断結果をご報告いただいた医療機関数

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2012年							
		4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週
ウイルス	アデノウイルス	5	3	1	3	3	4	8	2
	ライノウイルス		2		1	2	2	1	
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	1	2						
	単純ヘルペスウイルス		1						
	水痘・帯状疱疹ウイルス			1					
	ヘルペスウイルス6/7	3	3	1	2	1	5	1	5
	EBウイルス		1	2	2		1	1	1
	サイトメガロウイルス	1						1	
	ムンプスウイルス		2	1		1			
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19	1							3
	RSウイルス		1			1			
	ノロウイルス	1	1		2	1	5	4	3
	ロタウイルス		1			1		1	2
インフルエンザウイルスAH1									
インフルエンザウイルスAH3	29	28	33	15	12	4	10	5	
インフルエンザウイルスB	7	11	12	6	7	9	18	14	
インフルエンザウイルスAH1pdm09									
デングウイルス(抗体を含む)									
その他のウイルス									
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌								
	百日咳								
	マイコプラズマ								
	その他の細菌								
その他の病原体									



病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2012年4週～2012年11週

臨床診断名 検出病原体		インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数		240	24	16	38	13	5	2	6			2	22	7	4	3		76	
ウイルス	アデノウイルス	11	5		2				1				3					7	
	ライノウイルス	1		2			1						3		1				
	ポリオウイルス																		
	コクサッキーウイルスA群																		
	コクサッキーウイルスB群																		
	エコーウイルス																		
	エンテロウイルス71																		
	その他のエンテロウイルス	1				1								1					
	単純ヘルペスウイルス																		1
	水痘・帯状疱疹しんウイルス														1				
	ヘルペスウイルス6/7			2									7						12
	EBウイルス		1										1	2					4
	サイトメガロウイルス		1																1
	ムンプスウイルス					1								3					
	麻疹しんウイルス																		
	風しんウイルス																		
	パルボウイルスB19												1	3					
	RSウイルス			2															
	ノロウイルス				16														1
	ロタウイルス				5														
インフルエンザウイルスAH1																			
インフルエンザウイルスAH3	133	1					1											1	
インフルエンザウイルスB	74	4	2									1						3	
インフルエンザウイルスAH1pdm09																			
デングウイルス(抗体を含む)																			
その他のウイルス																			
細菌	カンピロバクター																		
	サルモネラ																		
	腸管出血性大腸菌																		
	その他の腸管系病原菌																		
	溶血性レンサ球菌																		
	百日咳																		
	マイコプラズマ																		
	その他の細菌																		
その他の病原体																			

## <感染症豆知識>

### Hib ワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン

細菌性髄膜炎に対する予防接種として、2008年（平成20年）にHibワクチン、2010年（平成22年）に小児用肺炎球菌ワクチンが日本で導入された。任意接種であることから、これらのワクチンに対する公費助成は自治体によって様々である。また、り患によるリスクが高い時期を過ぎた1歳以降で接種を希望する方がいるなど、普及には課題が多い。2011年（平成23年）3月には、両ワクチンを含む同時接種後の死亡例の報告が複数あったことから、両ワクチンの接種を一時見合わせるとの通達が厚生労働省から出された。その後専門家による検討が行われ、1) 両ワクチンと一連の死亡例が現時点で直接的に明確な因果関係が認められない 2) 接種後の死亡例は諸外国と比較しても大きな違いがない 3) 国内外の研究でも、これらのワクチンを含む複数のワクチンを同時に接種した場合、重篤な副反応が増加した報告はない、という分析から、同年4月1日より接種再開となった。日本小児科学会からも正式に「ワクチンの同時接種は、日本の子どもたちをワクチンで予防できる病気から守るために必要な医療行為であると考え」というコメントが出ている。現在日本の予防接種は大きく変化しており、0歳児において日本小児科学会が推奨するワクチンはHibワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンを含め全部で7種類もあり、スケジュールを組むのが大変な時代となっている。

（文責 沼口小児科 沼口俊介）